

まつもと市民環境大学 2008年 第2回 上高地見学会

- 外来種について考える -

上高地は日本が世界に誇る貴重な自然です。しかし、近年人や物資の移動や気候の変化に伴う「外来種」の増加が目立ち始めています。このまま放っておけば上高地の自然や景観の危機にも繋がりがねません。今回の見学会では、この「外来種」に焦点を当てて、みんなで環境について考えていきましょう。



2007年9月 第1回見学会

日 時：2008年9月28日（日）9時
集合場所：上高地ビジターセンター前

講 師：島野光司（信州大学）
川西基博（立正大学）
持 ち 物：昼食、水筒、筆記用具、雨具
軽登山のできる服装
（寒い場合もあり）

資 料 代：2000円
雨 天：釜トンネルゲートが閉まるよう
な大雨以外は開催します。

当日連絡先：

申し込み先

メールアドレス まつもと市民環境大学 田口 taguchi@matsumoto.ne.jp
電話・ファックス 0263-32-1511(田口) 0263-46-2683(巽)

申し込み締切日：9月23日（先着40名にて締め切ります）

主催：まつもと市民環境大学

第2回上高地見学会・外来種について

上高地と人との関係は古くから続いています。近年観光という側面から急激に訪れる人が増えています。観光客や登山者が増えることで宿泊施設、トイレや道路、橋、工事(河川・砂防・治山工事)などの公共施設も増えています。このような状況の中で上高地の自然にも影響がはじめていますが、今回はこれらの行為の移動に伴う過程や気候などの変化による自然現象などが原因と考えられる「外来種」に焦点を当てます。

外来種が上高地の景観や自然環境、生き物に影響を与えるとすれば、私たちのこの地への接し方を見直さなくてはならないこととなります。この事は、日本の国立公園の中でも有数の景観や自然環境を備えている国立公園・特別保護地区という指定地がどうあるべきかを考えることにつながっていきます。

上高地の魅力を形作っている要素とは！それを保全していくために成り立ちのプロセスが明らかになれば人と自然との接し方が見えてきます。今回の催しが、上高地のあり方、人との共存のあり方を考える機会の手助けになればと考えています。

松本市への合併を期に県内外から上高地の扱い方が注目されています。この素晴らしい現場を見ながら各専門家から説明してもらい自然と人との共存を探りましょう。

「まつもと市民環境大学」設立趣意書

地球温暖化問題への取り組みは待ったなしの課題といわれています。1992年にブラジルのリオデジャネイロで開かれた「国連環境開発会議」(「地球サミット」)は、私たちのあとに来る世代の生活や地球生態系を脅かすことのないようにと21世紀の環境行動計画「アジェンダ21」を示しました。その5年後の「地球温暖化防止京都会議」では、さらに踏みこんでCO₂をはじめとする温室効果ガスの削減目標も定められました。

しかし、私たちの「行動」がなければ大きな政策も実現しません。

松本平では、多数の市民や団体が環境保全等に関わる活動を行っています。「草の根」から、足もとの課題に日々取り組んでいます。それがいかにしてグローバルな流れに注ぐかという課題が生じています。

特定地域、特定の問題を対象に様々な活動をくり広げてきた市民や団体が、垣根を越えて手をつなぐ必要があります。別々の活動が接触することによって、新しい視界が開けることも考えられます。そういった場をつくろうと、環境分野で活動している市民や団体が集まって話し合いました。

各分野の環境団体のつながりと環境運動の広がりをつくり出すことを目指して、「まつもと市民環境大学」をつくろうということになりました。市民一人ひとりが自分は何をなすべきかを考えるきっかけづくりとなるよう、いろいろな学びの企画に取り組んでいきたいと考えております。また、諸団体のネットワークづくりと協働の実現も重要な課題です。

みなさまのご支援のほどよろしくお願い申し上げます。